

市民が変わらなければ 小樽は変わりません。

小樽市の経済は加速度的に衰退、企業、商店はギリギリの状況に追い込まれ、若者が定着する場所も無く、人口は13万人を切ろうとしております。

愛知県知事選挙や名古屋市長選挙に見られるように、国会議員経験者が首長に選出されるのは、発想の転換と大きな政治力に裏打ちされた実現力が期待されているからであります。私は一度政界引退宣言をいたしました。そういう市民の皆様の熱い想いを受け、今立ち上がらなければ後悔になると思い決意いたしました。

「なれ合い」「しがらみ」の中で議論の対立を恐れ、有力政党や団体が手を組んで、オール与党体制を作る首長選挙は、今や全国では稀です。

夕張のように、オール与党体制維持のために、「なれ合い」「しがらみ」選挙を続け、破綻した例を決して忘れてはいけません。

いま小樽市民は、古い体質から脱皮する勇気が試されているのです。チェンジです。市民が変わらなければ、小樽は変わりません。主役はあなたです。



さとうしずお

佐藤静雄

佐藤静雄の会 会報

〒047-0032

小樽市稲穂2丁目4番6号

TEL.0134-24-3200

FAX.0134-22-0090

討議
資料

<http://www.sato-shizuo.com>

<http://twitter.com/@kuromotikibi>

小樽健康ホット市宣言

1

市役所を丸井デパート跡に移転。中心市街地、花園飲食店街等のにぎわいを取り戻します。

2

シャッター通り化した国道5号線にぎわい対策として、市単独事業で町並みづくりに着手。空き店舗は持主と協議の上、若者、リタイヤした方、外国人などの「起業」の場として事務所・店舗の簡易改修を支援します。

3

市役所に商社機能を持たせ地元農水産品・製品・コンピュータソフト等を全国、世界に売り込むための独立行政法人を作り、小樽商大との産学官連携も強化します。

4

市内中核病院(現市立病院を含む)後志管内温泉地と連携し、ロシア・中国から「健診観光客」を呼び込みます。(1~3泊コースで観光宿泊対策につなげます)

5

札幌、小樽、後志管内をつないで、魅力的な新観光コースを作ります。

●温泉療養、健康づくりコース ●歴史、ミュージアムコース
●体験、住民ふれ合いコース ●小樽・後志美覚コース 等

6

フェリー輸送拡大のため、道内外産業界との連携を強化します。

7

小樽港をロシア、中国交易(人とモノ)の拠点港と位置づけ、利用促進を強化し、外国人事業所も誘致します。

8

生活、観光共用交通手段として低床路面電車(車椅子や自転車も瞬時に乗れる)の導入を目指し、建設構想計画をスタートさせます。

9

第三埠頭に海の駅空間を作り、陸のJR駅とつなく、ウォーターフロント(海辺再開発)計画を進めます。

10

小樽市立病院には一般会計から毎年13億~20億円(平成22年度は27億円)が拠出されております。市立病院を市の意見が反映されることを確認の上民営化し、これ以上市民の税金をつぎ込むことを止め、一部を市民の保険料軽減にまわします。

●国民健康保険料と介護保険料を引き下げます。

11

リバース・モゲージ(高齢者が自宅を担保にする年金制度)の導入と運営する独立行政法人を設立します。

※リバース・モゲージとは…高齢者が所有する自宅の評価額を平均余命で割って年金化。独立行政法人は不動産を貸家等で運用し、死亡後に売却し、評価額と同じになるように調整する。

12

リバース・モゲージ制度の導入に合わせ公営住宅の位置づけを見直し、ケア付高齢者向け市民住宅として空き次第順次入居させます。

13

小樽ベイシティに、NPO法人による簡易デイサービス及びおとしよりや子供、障がいを持った方や健康者とのふれあい共感広場をつくります。

14

市民による事業仕分けと最新IT利用で、行政の効率化と行政経費削減をはかります。

15

町内会の規模を見直し、地域住民によるコミュニティづくりを支援します。

16

履き違えた個人主義・平等主義教育を改めるとともに、文化、芸術、スポーツに強い教育をすすめます。

17

国会議員時代に私のライフワークであった札幌までの新幹線建設を目指し、私の財源論を市長の立場で展開し、実現に向けて挑戦します。